【JICA草の根技術協力事業】
ニカラグア共和国・マナグア市環境学習・教育および多様な主体の連携による環境保全活動推進支援事業



写真：JICAニカラグア事務所提供

草の根技術協力事業

■ 草の根技術協力事業

国際協力の意思のある**日本のNGO/CSO、その他民間の団体、地方公共団体、独立行政法人または学校**が、団体が有する技術、知見、経験を生かして提案する国際協力活動を、**JICAが提案団体に業務委託してJICAと団体との協力関係のもとに実施**する共同事業。

＜草の根技術協力事業の3要素＞

①日本の団体が主体的に行う**「技術協力」**であること
②**相手国側実施機関（カウンターパート）との協働であること**
③開発途上国の**地域住民の生活改善・生計向上に裨益すること**

＜草の根技術協力事業の3つの活動＞

①**人員の派遣**　②**機材供与**（支援型は対象外）　③**技術研修の実施**

地域活性型に提案、採択を受けました

類型	パートナー型	支援型	地域活性型
対象団体	開発途上国における国際協力に関し**豊富な実績を有している団体**が対象。	**開発途上国への支援実績が少ない団体**が対象。	**地方公共団体が主体**となって提案・実施。
狙い	経験や強みを活かし、開発途上国の課題解決により寄与する事業を展開することが期待される。	国際協力の経験を積み、将来的に国際協力の担い手として活躍することが期待される。	途上国の開発課題の解決とともに日本の地域や経済の活性化にも寄与することが期待される。
事業規模	1億円/3年（最大） （3000万円/3年の別枠あり）	1000万円/3年（最大）	6000万円/3年（最大）

出典：JICAホームページ
（https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/kusanone/__icsFiles/afieldfile/2026/06/03/kusanone202606.pdf）

ニカラグアとマナグア湖

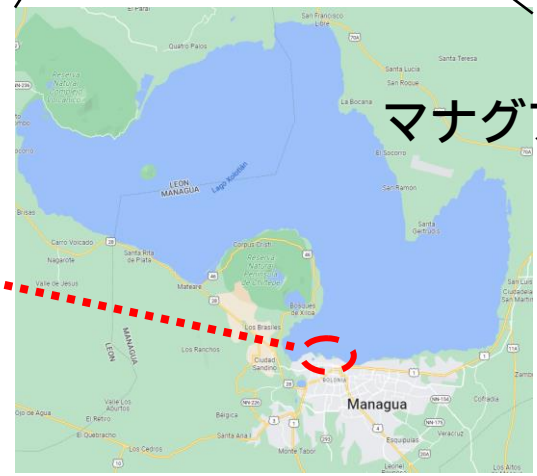




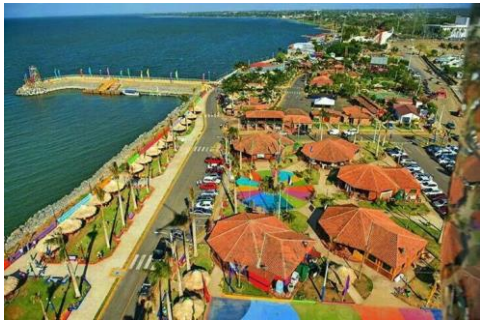
ニカラグア共和国	
面積	130, 370平方キロメートル
人口	約660万人
首都	マナグア
民族	混血70%、ヨーロッパ系17%、アフリカ系9%、先住民4%
言語	スペイン語
その他	中央アメリカ最大の湖「ニカラグア湖」および２番目に大きい「マナグア湖」を有する。



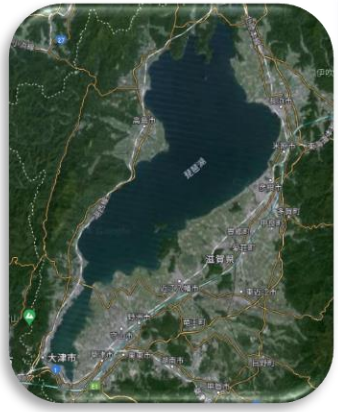




マナグア湖畔
(サルバドール・アジェンデ プラザ)



琵琶湖とマナグア湖









出典：google map

	琵琶湖	マナグア湖
面積	669.26㎢	1053.58㎢
長さ	63.49㎞	65㎞
最大幅	22.8㎞	58㎞
最大水深	103.58ｍ（平均水深41.2ｍ）	20ｍ（平均水深9.5ｍ）
その他	・日本で最大、最古の湖世界で20程存在する古代湖のひとつ。 ・60種を超える固有種を誇るなど貴重な自然環境を有する ・1980年「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(琵琶湖条例)施行 ・1983年 学習船うみのこ就航 ・2015年「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」施行 ・2021年「マザーレイクゴールズ(MLGs)アジェンダ」策定	・ニカラグアおよび中米で２番目に大きい湖 ・モモトンボ火山を有する ・約100年に渡り、生活排水や産業排水により汚染 ・1967年～1992年には工場から約40ｔの金属水銀および無機水銀の流出 ・2009年に下水処理場が完成し、悪臭問題が解決するも、依然として生活排水、廃棄物等により汚染され、流域住民は水に触れることができない状況 ・2021年 ニカラグア版UMINOKOスタート

滋賀県フローティングスクール「うみのこ」とニカラグア版UMINOKOの関係

令和2年（2020年）

JICAニカラグア事務所でBIWAKOタスクフォース誕生

湖の水をきれいにして、泳いだり、飲んだりできるようにしたい！



2020年～2021年

・ILBMと琵琶湖環境保全に関するケーススタディ
・専門家とのミーティング、ウェビナー
・うみのこフローティングスクールとの交流セッション









令和3年（2021年）～

ニカラグア版UMINOKOのスタート



令和5年（2023年）11月

第19回世界湖沼会議（ハンガリー）での滋賀県とニカラグアとの共同発表



ニカラグア版UMINOKOの実績

■ 2021年（２校実施）
小学校５年生　127人参加

■ 2022年（３回実施 ※実施校数不明）
小学校５年生　192人参加

■ 2023年（８校実施）
小学校４年生　651人参加

■ 2024年（10校実施）
小学校４年生　299人参加



⇒これまで、**10校　1,170人**が乗船

JICA草の根技術協力事業
ニカラグア共和国　マナグア市環境学習・教育および多様な主体の連携による環境保全活動推進支援事業

最上位目標：マナグア市において、市民が主体的にマナグア湖の環境保全活動を実施する

■ 2009年に下水処理場が設置されるも、約100年にわたって汚染されてきた水質はすぐに改善せず、流域住民は水に触れることもできない現状。







マナグア湖（ニカラグア）

■ 環境教育の一環で2021年から滋賀県の取組を参考に現地政府がニカラグア版UMINOKOをスタート。




流域住民による廃棄物、生活排水が湖汚染の主原因
⇒環境教育、環境保全活動の更なる充実が必要

滋賀県の環境教育と環境学習のノウハウを活かして
ニカラグアの取組を支援

プロジェクト目標

学校での環境教育や地域社会での環境学習を通して、マナグア湖の環境保全への意識が向上し、具体的な環境保全活動につながる

プロジェクト実施期間

2026.10.20～2029.10.19（3年間）

アウトプット（成果）

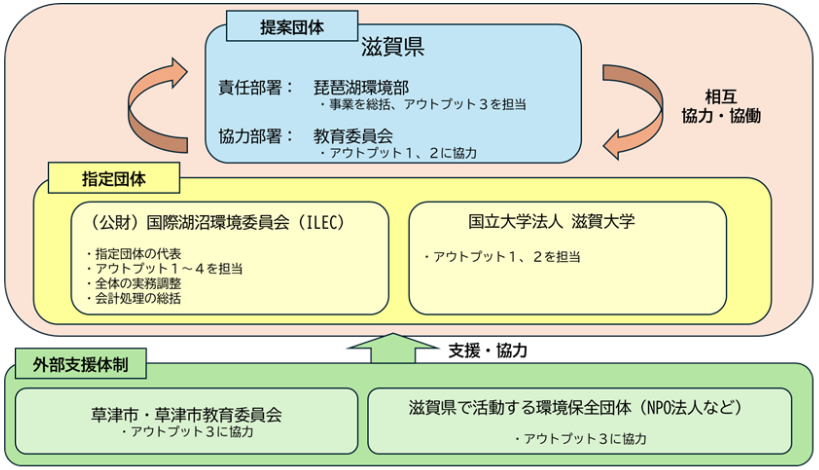
① 学校現場での環境教育の実施の基盤ができる
・教材等を「マナグア湖ならでは」のものに更新

② モデル校で環境教育の実践が定着する
・ニカラグア版UMINOKO乗船前後の学習プログラムの検討

③ 地域での環境学習が実践される
・本邦研修の実施、現地での環境学習企画の実施

④ 学校を核とした地域での環境保全の取組の実践モデルが構築される
・成果①～③を整理し「実践モデル」案として取りまとめる

実施体制（日本側）



事業費は３年間で最大6,000万円、原則全額JICA負担